



# 消防大学校だより

## 警防科 (第95期、第96期)

消防大学校では、専科教育において、警防業務の指導的立場にある職員を対象とした研修課程で、警防業務に関する高度の知識及び技術を専門的に修得させ、警防業務の教育指導者等としての資質を向上させることを目的に「警防科」を設置しています。

平成26年度警防科においては、第95期学生60名（平成26年6月11日～7月30日）、第96期学生60名（平成26年10月21日～12月10日）が、事前教育として約1ヶ月間のeラーニング（インターネットによる個別学習）の受講を経て、消防大学校での約7週間の全寮制の集合教育を終え、卒業しました。

消防大学校の教育訓練では、東日本大震災を含めた最近の災害・事故等の教訓を踏まえ、教室等での座学（講義）や実技を伴う実科訓練を実施しています。

座学では、最新の消防行政の動向に関する講義のほか、火災現場指揮、安全管理、特殊災害対策、医療機関との連携、教育技法等、警防業務の教育指導者として必要な知識の習得に努めました。

実科においては、小・中・大隊長としての段階的な指

揮訓練、特殊災害対応訓練（BC災害対応）、危険予知訓練、多数傷病者対応訓練等を実施し、広く警防活動における基本技術等を学びました。

また、入校中に習得した知識技術の集大成として学生企画総合訓練を実施し、訓練の企画から実施、検証、報告までの技法を学びました。

さらに、火災件数の減少と熟練職員の大量退職に伴う経験の浅い若年職員の増加や火災性状等の認識不足による受傷事故を減少させるため、実火災体験型訓練（ホットトレーニング）を実施しました。

今回の研修を受講して、学生からは入校当初の目標を達成することができ、大変有意義であったとの意見が多く寄せられたほか、同じ目標を持った仲間が全国から集い、入校期間中は様々な意見を交わすことができたことは大変貴重であったとの感想も多くみられました。

今後は、消防大学校で習得した幅広い知識と磨きをかけた技術に加え全国の仲間から得た情報を活かして、警防業務の教育指導者として活躍することが期待されます。



指揮訓練の様子（第95期）



消火戦術訓練（PPV）の様子（第95期）



通常点検の様子（第96期）



指揮シミュレーション訓練の様子（第96期）

## 自主防災組織育成短期講習会

消防大学校では、「自主防災組織教育指導者に対する教育のあり方に関する調査研究」の一環として作成した指導者用教本の普及及び効果検証を行うために、自主防災組織の指導・育成業務に携わる担当職員（行政職員、消防職員、学校教官）を対象にして、業務に必要な基礎的知識及び能力の習得を目的とした講習会を開催しています。

平成26年度は、消防大学校（10月23日～24日）及び香川県高松市（11月13日～14日）で開催し、全国各地から地方公共団体の職員113人（都道府県6人、市区町村59人、消防本部41人、消防学校7人）が受講しました。

講習会は、講義及び演習の2日間で構成し、1日目は、消防庁国民保護・防災部防災課地域防災室住民防災係長による「地域防災力の充実強化への取組」、香川県丸亀市川西地区自主防災会の岩崎会長による「自主防災組織の現状」、山口大学大学院の瀧本准教授による「今から始める地域防災の再生」の講義を実施しました。

2日目は演習として、受講者は6名1グループとなり、瀧本准教授、NPO法人ぼうぼうネットの山崎理事、岡

山県瀬戸内市危機管理部危機管理課の松井主任の指導の下、「地域防災推進のための研修体験」として、「まち歩き」、「災害図上訓練D I G」、「防災啓発事業の創出」を実施しました。今年度から新たに実施した「まち歩き」は、災害図上訓練D I Gをより効果的なものとするために、図上訓練で使用する地図上を実際に歩き、地域の危険箇所や避難場所等を確認するものです。

研修を終えた受講者からは、「自主防災組織に係る業務の基本的な事項について、再確認・習得する機会となった」、「自主防災組織を継続活動活性化するための参考になった」、「災害時は何が起きるか分からないが、災害が起きていない今だからこそ考え、準備しなければならないことが沢山あると学べた」、「まち歩きをすることで、住民目線で図上訓練に臨むことができた」等の感想が多く寄せられました。

今後は、自主防災組織を指導・育成していく上で、本講習会で得た知識、技術を十分に活用し、それぞれの地域で活躍されることが期待されます。



川西地区自主防災会会長 岩崎 正朔氏による講義の様子



災害図上訓練D I Gの様子

### 問い合わせ先

消防大学校教務部  
TEL: 0422-46-1712